



学校通信

とうよう

第8号
令和7年9月29日
泉大津市立東陽中学校
校長 花見 明子

東陽校区小中一貫教育校 重点教育目標 「誰とでもつながる力」の育成
学校教育目標 自己成長と挑戦

泉大津市立東陽中学校ホームページ



令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

※ 全国学力・学習状況調査(国語・数学・理科・生徒質問)は中学3年生対象です。

令和7年4月17日(木)実施の全国学力・学習状況調査結果について、本校の結果を報告します。3年生は返却された個人結果と合わせて確認し、学習計画の参考にして、令和7年度後半の学習を主体的に進めていきましょう。

【国語科】

[資料1] 全国学力・学習状況調査・学校(国語)

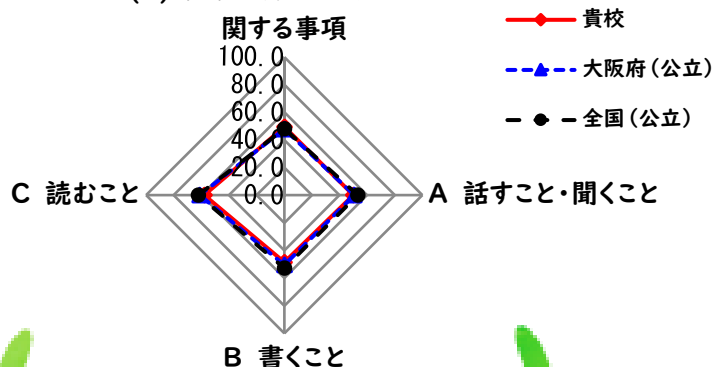
	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)
泉大津市立東陽中学校	198	7.2 / 14	51
大阪府(公立)	58,455	7.3 / 14	52
全国(公立)	870,560	7.6 / 14	54.3

[資料2] 全国学力・学習状況調査・分類(国語)

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				東陽中	大阪府（公立）	全国（公立）
全体			14	51	52	54.3
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	49.5	47.8	48.1
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	50.0	50.7	53.2
		B 書くこと	5	48.5	50.5	52.8
		C 読むこと	3	57.9	61.2	62.3
評価の観点		知識・技能	2	49.5	47.8	48.1
		思考・判断・表現	12	51.3	53.2	55.3
		主体的に学習に取り組む態度	0			

[資料3] 全国学力・学習状況調査(国語) 正答数分布グラフ

(1) 言葉の特徴や使い方に



【資料4】全国学力・学習状況調査(国語) 問題集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	貴校	大阪府 公立	全国 公立
2 四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができかどうかをみる	24.2	19.5	23.2

今年度の全国学力・学習状況調査では、大阪府の平均正答率を 1 ポイント、全国では 3.3 ポイント下回った【資料1】。「知識・技能」の領域においては、正答率が府・全国より上回っているが、「思考・判断、表現」では、府・全国を下回っている。その中でも、「読むこと」が一番低かった【資料2】。知識は定着してきていると考えられるが、「書くこと」は正答率が低く、学習を積み重ねているものの定着に課題がある。一方、条件に合わせて自らの考えを書く問題において、正答率が府+4.7 全国+1.0 と上回っている。文字数の指定がないため簡略的に書いてしまいがちだが、必要な言葉を選び根拠立てて書くことができていることがうかがえる【資料4】。

対策として①文章を読み、聞かれていることを理解する。→RS(リーディングスキル)を意識した授業展開を行い、読解力スキル学習(毎週 1 回全校一斉)を継続して実施する。②意図を理解する力→言葉や文章から表現・工夫の効果をとらえ、より丁寧な読みを自分でできるようにする。③見直す力→生徒自身の見直しや教員の指示・確認だけではなく、生徒間で確認する機会を設ける。これら 3 点を意識した授業を取り入れ「思考・判断、表現」の向上に努める。

【数学科】

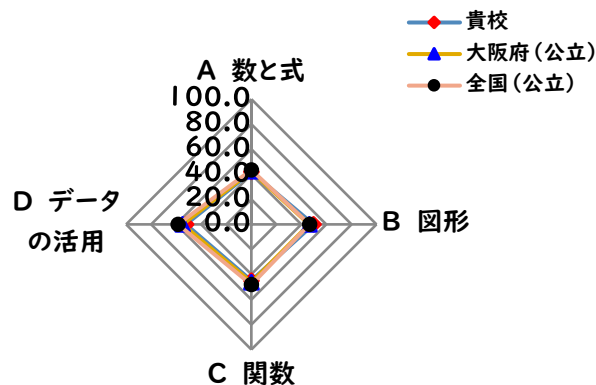
【資料5】全国学力・学習状況調査・学校(数学)

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)
泉大津市立東陽中学校	196	7.0 / 15	47
大阪府(公立)	58,607	7.0 / 15	47
全国(公立)	871,097	7.2 / 15	48.3

【資料6】全国学力・学習状況調査・分類(数学)

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			東陽中	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		15	47	47	48.3
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	41.8	42.4	43.5
	B 図形	4	49.7	46.2	46.5
	C 関数	3	44.9	46.3	48.2
	D データの活用	3	52.2	54.9	58.6
評価の観点	知識・技能	9	55.3	52.9	54.4
	思考・判断・表現	6	33.7	37.4	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			

〔資料7〕全国学力・学習状況調査(数学) 正答数分布グラフ



〔資料8〕全国学力・学習状況調査(数学) 問題集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	貴校	大阪府公立	全国公立
7(1)	Aの手元のカードが「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる	77.6	75.9	77.4
7(2)	Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不特定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができているかどうかを見る	44.4	52.4	55.9

今年度の全国学力・学習状況調査では、大阪府の平均正答率を±0ポイント、全国では1.3ポイント下回った〔資料5〕。「知識・技能」領域では府を2.4ポイント、全国を0.9ポイント、ともに上回ったが、「思考・判断・表現」領域では、府を3.7ポイント、全国を5.4ポイント、ともに下回っている〔資料6〕。

問題と正答率を分析すると、「思考・判断・表現」の正答率が低いのは、「知識・技能」を十分生かしていない可能性が考えられる。計算や反復しやすい問題に関しては、一定の定着がみとれるので、用語の意味理解や、それを用いて表現する学習を増やす等に取り組んでいきたい。

〔資料8〕7(1)のように、読解力が必要な問題の正答率が府・全国平均を上回り、長い説明文の中で必要なところに注目し、解答できている問題もある。(ヒントとして、囲まれて強調してある、かつ問題となる空欄に直結する部分ではある。)これは、全校で実施している読解力スキル学習の取組みが少しずつ成果を出していると思われる。一方、7(2)のように、説明、証明する問題について、無解答は少しずつ減っているものの、府平均よりも低く、数学的表現力の定着に課題がみられる。

無解答が少しずつ改善してきているのは、読解力向上に向けて、授業で読む問題に自ら取り組む、読解力スキル学習を実施する等で、長い文章や複雑な文を読んで考える習慣が身につく、意欲的に解答している生徒が増えたからであろう。

以上の点をふまえて、今後も取組みを継続し「思考・判断・表現」の向上に努める。

【理科】

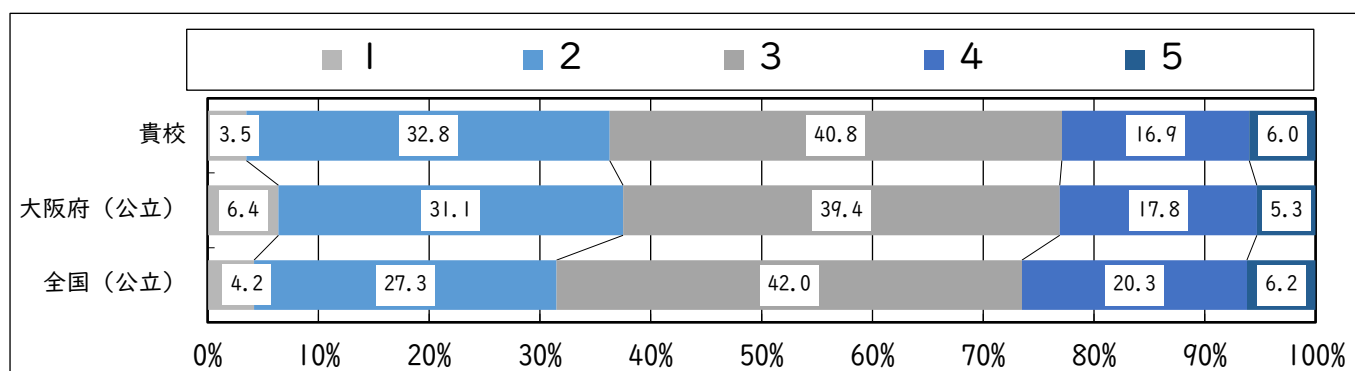
〔資料9〕全国学力・学習状況調査(理科) 平均正答数集計値

	生徒数	平均正答数
泉大津市立東陽中学校	201	2.7 / 6
大阪府（公立）	57,913	2.7 / 6
全国（公立）	864,634	2.9 / 6

〔資料10〕全国学力・学習状況調査(理科) 問題集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	貴校	大阪府公立	全国公立
1(6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる	83.6	73.8	79.4

〔資料11〕全国学力・学習状況調査 IRT分布グラフ(理科)



理科は、初めてタブレットを用いて解答する方式で操作が心配された。しかし、次ページの【生徒質問】〔資料12〕を見てもわかるように、生徒は本市立小学校在籍のときからタブレットを活用する授業を受けており、振り返りシートや課題を提出する、プレゼンテーションやパフォーマンス課題で使用する等、学校や家庭で活用の経験を積んでいることから解答はスムーズであった。

理科の共通問題平均正答率は府と同等の結果であった〔資料9〕。府、全国と比較したときに、実生活に関する問題が全国平均より高く、昨年度から取り組みを進めている実生活につながる授業により、学びを人生や社会に生かそうとする力がついてきていると考えられる〔資料10〕。

また、理科の非公開問題（生徒によって異なる問題）の結果については、※IRT（項目反応理論）を用いて、生徒の学力や能力を5段階に区分したものが示されている。基準となる「3」を中央値とし、5が最も高いバンドを示す〔資料11〕。本校においては、府や全国と比較して1が少なく5が多い傾向があり、今後は2を3に、3を4に引き上げるための学習を取り入れることが課題となる。

※IRTとは、国際的な学力調査（PISA、TIMSSなど）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOFELなど）で採用されているテスト理論で、異なる問題から構成される調査の結果を同じものさし（尺度）で比較できる。

↓IRTについては、下記をクリックして文部科学省の資料をご確認ください。

[〔資料2-1〕令和7年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」IRTを用いた結果返却について](#)

【生徒質問】

【資料12】全国学力・学習状況調査(生徒質問) 集計結果

質問番号	質問事項	学校	ほぼ毎日 1日に複数	ほぼ毎日 1日に1回	週3回 以上	週1回 以上	月1回 以上	月1回未満
28	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	東陽	71.0	18.5	9.0	1.0	0.0	0.5
		大阪府	25.6	20.4	21.6	19.5	9.0	3.4
		全国	29.5	23.7	23.3	15.7	5.3	2.0

【資料13】全国学力・学習状況調査(生徒質問) 集計結果

質問番号	質問事項	学校	とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない
29-2	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると思いますか	東陽	50.0	42.0	5.5	1.5
		大阪府	45.5	44.2	7.4	1.7
		全国	48.4	43.1	6.4	1.1

【資料14】全国学力・学習状況調査(生徒質問) 集計結果

質問番号	質問事項	学校	あてはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかとい えば当て はまらない	当てはま らない
32	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	東陽	17.0	62.5	17.0	3.0
		大阪府	23.9	52.7	19.3	3.4
		全国	23.4	54.3	19.0	2.7

【資料15】全国学力・学習状況調査(生徒質問) 集計結果

質問番号	質問事項	学校	あてはまる	どちらかとい えば 当てはまる	どちらかとい えば 当てはまらない	当てはま らない	活動を行っ ていない
35	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	東陽	27.5	54.0	13.5	3.5	0.5
		大阪府	31.9	49.8	11.8	3.3	1.7
		全国	35.1	49.6	10.5	2.5	1.1

「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に対しての「ほぼ毎日 1日複数」の回答は、府、全国の平均を2倍以上、上回った結果となった[資料12]。全教科でタブレットを使用しており、英語では一昨年から、デジタル教科書を導入し、タブレット活用が進んでいる。また、「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問の肯定的な回答は、府、全国を上回っており、「主体的に学びに向かう力」を意識した授業づくりを行った結果、生徒が主体的に学習に取り組むようになったといえる[資料14]。

「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問に対しての強い肯定的な回答は、府や全国の平均より少ないが、肯定的な回答は差異がない。一方、強い否定の回答が、府、全国の平均より少なかった。学校全体で班活動やペアワークで話し合い活動に取り組んでおり、少しずつ浸透してきている結果であると考えられる[資料15]。

全国学力・学習状況調査について、校内研修において、教科を問わず全教員で問題を解き、分析をしております。また、昨年度に引き続き、大阪府教育庁スクール・エンパワメント推進事業 確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校の指定を受けて9月19日(金)に、教員向けの公開研究授業を開催しました。令和7年度後半期も教員の授業力向上と生徒の学力向上・定着に向けて、取組みを継続し進めていきます。ご理解ご協力をお願いいたします。